

認知症ケア研修会プログラム

開催日：2020年3月3日(火)・4日(水)

会場：東京「AP浜松町」DEFルーム

認知症ケア加算2 該当研修

時 間	内容・講師等(敬称略)
3月3日(火)	
10:00	開 会
10:00 ~ 11:30	<p>講 演 I</p> <p>演 題 「認知症の原因疾患と病態・治療」</p> <p>講 師 東京都立松沢病院 認知症疾患医療センター長 新 里 和 弘</p> <p>認知症疾患の病態を正確に知ることは、認知症ケアの基本と考える。4大認知症といわれるものから治療可能な認知症まで、その病態に関して概説を行い、認知機能低下を抑止する方策に関して解説する。</p>
11:30 ~ 12:30	休 憩 (昼 食)
12:30 ~ 14:50 (途中10分休憩)	<p>講 演 II</p> <p>演 題 「行動・心理症状(BPSD)、せん妄の予防と対応法」(演習含む)</p> <p>講 師 東京慈恵会医科大学 医学部医学科 精神医学講座 教授 東京慈恵会医科大学附属病院 精神神経科 診療部長 繁 田 雅 弘</p> <p>軽度の不安や混乱も行動心理症状に含めれば、認知症疾患を有するすべての人が行動心理症状を呈していると言える。まず行動心理症状とよばれるものにはどのような症状があるのかを整理する。続いて、そうした症状がどのようにして起こるのかを具体例を示しながら考えたい。演習では、参加者が現場で経験している行動心理症状の中から題材を選び、その原因や支援について議論する。</p>
14:50 ~ 15:00	休 憩
15:00 ~ 16:30	<p>講 演 III</p> <p>演 題 「認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援」</p> <p>講 師 東京都立松沢病院 院長 齋 藤 正 彦</p> <p>認知症の医療には、様々な倫理的課題が存在する。特に、認知機能の低下によって自律が損なわれたとき、極めて一身専属的事項である医療上の意思決定をいかにして支援するかという問題は、その中心的課題であると言ってよい。成年後見制度を利用した代理権の行使の弊害、家族と患者の利益相反の問題等を取り上げ、臨床的な課題解決への指針を探る。</p>
16:30	終 了
3月4日(水)	
9:30 ~ 12:00 (途中10分休憩)	<p>講 演 IV</p> <p>演 題 「入院中の認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助技術」(演習含む)</p> <p>講 師 聖カタリナ病院 看護師 富 岡 斉 実</p> <p>入院中の認知症の人を包括的にアセスメントするための視点、および入院加療および退院をスムーズに進めるために必要な援助の方法について学ぶ。事例のディスカッションを通して、日ごろの自らの実践を振り返り、認知症の人に対するよりよい援助について考えを深める。</p>
12:00 ~ 13:00	休 憩 (昼 食)
13:00 ~ 15:30 (途中10分休憩)	<p>講 演 V</p> <p>演 題 「コミュニケーション方法及び療養環境の調整方法」(演習含む)</p> <p>講 師 医療法人社団翠会 和光病院 看護部長 石 川 容 子</p> <p>認知症の人は、記憶障害や見当識障害などの中核症状によって生活の中で多くの困りごとを抱えている。それらを補う1つは、質のよいコミュニケーションである。認知症の人が自信を失うことなく、安心して、落ち着いて生活できるコミュニケーションのとり方、療養環境の調整について考える。</p>
15:30	閉 会
15:30	修了証書交付